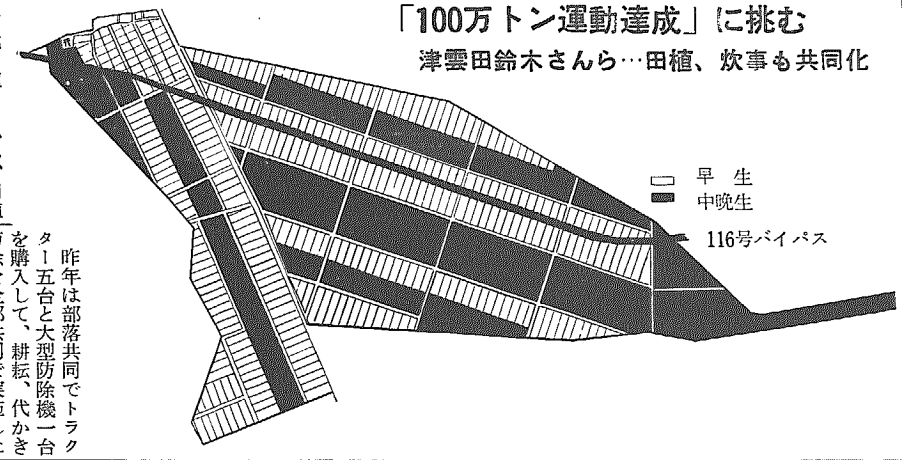
「100万トン運動達成」に挑む

津雲田鈴木さんら…田植、炊事も共同化



苗代の種まきから、田植まで一貫して共同作業をすすめている津雲田部落では「高度集団栽培促進事業」第二年目を迎え、米百万トン達成運動に呼応して、経営の近代化と増産に意欲を燃やしている。

昨年は部落共同でトラクター五台と大型防除機一台を購入して、耕耘、代かき防除を全部共同で実施したが、今年は更にこれを前進させて、共同苗代から共同田植、共同炊事にふみきり大きな成果をあげている。

この共同作業にふみきったのは第五作業班の、月岡登、鈴木唯克、長谷川政吉本間本吉、本多四郎さんら五戸の農家で、苗代から始まり、耕耘、代かき、田植と一貫して共同作業をすすめた。注目された共同炊事は鈴木唯克さん宅を宿にして五月十五日から二十日までの六日間、家族全員がここで食事をし、作業を行なった。

五戸の経営面積は全部で十二㌶、最初のこころみであり計画も慎重に幾晩も全員が寄って討議を重ね昨年までの実績をもとに作業分担をきめて作業にかかった。幸い期間中好天気に恵まれ、二十三日まで予定したものが三日も早く完了した。反省会で共同田植の感想を聞いてみたところ次の意見が出された。

共同にふみきるまでは不安であったが、やって見てよかった。これもみんなが真剣に話し合って協力し合った結果であり、共同にやるならば苗代から一貫した共同作業でないと本当の価値が出ない。

いつもならば二日で田植をおわって後は他の家へ田植に行くため植えた後の水管理がうまくできなかったが共同のおかげで、他へ出ないで植えた後の水管理がよくできる。

普及所の協力を得て共同炊事をやったので雑用がなくて非常に助った。

まだ計算してないので予定より何人少なくてすんだかはわからないが、三日も早くすんだのだから人数も相当節約できた。一例をあげれば苗運搬などは五戸であれば最少五人いるわけだが、一人でやれた。雨が降らなくてよかったが、今までであれば雨降りに当れば自分の田は全部雨降りという悪条件に植えることになるが共同であればそれを五分の一にすることができる利点がある。

共同にしたからいくらの手間と経費が浮いたなどということはわからない。新らしいものにふみきるのだからそのための協議や打合せでかえって手間はかかっているだろう。苗代資材にしても、全部新品に切替えるなど経費の面でも思わぬ出費もある。しかしこれは最初の出発であり、他の先端を切って進むには思わぬ障害もあったが、何より大切なことは、みんなで力を合せてやろうという人間関係である、とういことであった。

津雲田部落は昭和四十年から全耕地の集団栽培にふみきり、熟期統一を始め、同利用等、次々に高度の形態に歩んできた。米の収量においても年々増収し、今年は更に増収しようと意気込んでいる。

津雲田過去三年の米売渡し実績

三九年	四、一八五俵	
四〇年	四、四七九俵	
四一年	四、五五七俵	

"あ"かあちゃんの顔がテレビに！

NHK夜の番組「夜のアルバム」取材が、五月二十三日、潟上部落の田植風景を対象に行なわれました。テレビ、ドキュメンタリーにはフイルムの絵に比べて、解説の鋭さで対象にきり込んでゆくという番組があるが、この「夜のアルバム」は、就寝前の番組とあって、目ざすものは、視聴者の側から緊張、怒り、失望などひき出し、一転して共感や感動にもちこむことをねらった番組でなく、あくまで"映像"の発見であり、フイルムの記録による実証であり、都会の人に田植とはこんなことであると、見てもらう番組、蒲原地帯特有のハザ木のある田園風景は全国民の目を見はらせることだろう。取材に当り、斎藤区長はじめ部落中で協力していた。

放送時間六月八日午後十一時四〇分～五〇分迄。

海の祈願祭挙行

六月二十一日
午前十一時
間瀬海雲寺

おめでた　5月20日まで

出生の部

氏名	出生月日	保護者	部落
田中朗	4.21	征二	夏井
小林真弓	4.19	庄一	和納一区
樋口朝樹	4.29	勝一三男	和納八区
堀川雅子	5.4	竹内和美	金池
能登谷清浩	4.30	良雄	和納九区
本間真奈美	5.14	勇	間瀬三区
		富一郎	間瀬六区

死亡の部

氏名	年令	死亡月日	世帯主	部落
鷲沢キミ	65	4.26	本人	岩室
小林重次郎	77	4.29	本人	高畑
小林ナセ	84	5.6	甲太郎	西船越
坂下キチ	71	5.8	潔	和納三区
中沢三一	25	5.7	仲市	和納七区
後藤ミツ	79	5.21	安太郎	岩室
幸村ハツ	66	4.30	本人	間瀬二区
立島チヨノ	45	5.12	米作	間瀬六区
石塚ミヨ	41	5.19	セノ	間瀬二区

農地被買収者国庫債券の担保貸付について

農地被買収者国庫債券を担保として、本年度も事業資金が融通されることになりました。

希望のある方は、役場農業構造改善課へ六月五日迄に申込んで下さい。

借入申込みについては昨年同様でありますが、あくまで事業資金として貸付であり、国庫債券の額に応じて貸付されますが、最高額は十万円迄とされています。

天職に甘んじ世の「ともしび」

梶原さん 勲六等瑞宝章
佐藤さん 勲六等単光旭日章 叙勲

四月二九日天皇誕生日のよき日にあたり、天皇陛下より各界功労者の方々に対して勲章及び銀杯、木杯が授与されましたが、岩室村より次の二氏が叙勲されました。

▽勲六等瑞宝章

梶原嘉栄智氏63才（橋本）元岩室郵便局、郵便運送請け負い者、郵便集配、運送業務功労

▽勲六等単光旭日章

佐藤徳太郎氏78才（和納三区）土地改良事業功労

今回の春の叙勲および賜杯の選考にさいし、広く各界各層の功労者に及ぼすことを旨とし、著名人だけでなく天職に甘んじ世の「ともしび」となった功労者を積極的に見いだすことに務めたとのこと。

佐藤さん

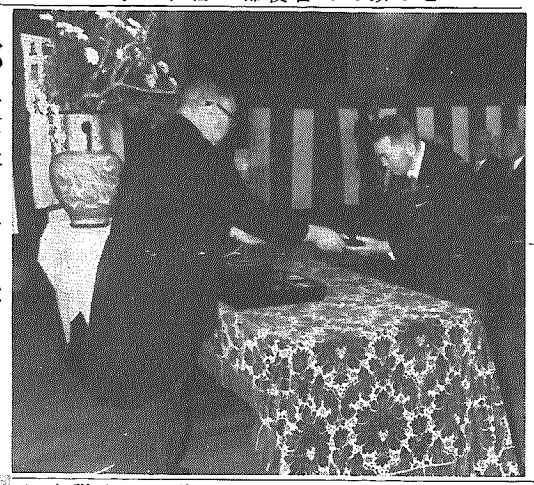
天職に甘んじ郵便業務に40余年梶原嘉栄智さん

大正十二年の十九才のとき局員が病気で倒れ、その助手としてこの職につき以来昭和二四年退職するまで郵便の集配、逓送手として岩室7巻間一日二回木の台車を引いて七㎞の道を往復し逓送に従事、人生の大部分を天職に甘んじ世の『ともしび』となって郵便運営に全力を傾けてきた。現在長男忠さんも親の意志をついで引き続いて逓送の仕事に打込んでいる。

『こわかったね!!昔は大雪で当時自動車もなく、朝四時に起きてガスランプを持って、深い雪をかき合けて、巻まで五時間もかかってしまったこともあった。オレの命より郵便物の方が大切だと思い必死だったこれも妻（ムツさん）の内助の功が大きかった』……と当時の苦労をかみしめながら語っていた。尚同氏は、昭和四十年四月にも黄綬褒章をもらっている。喜びもひとしおであろう。

和納地区招魂祭

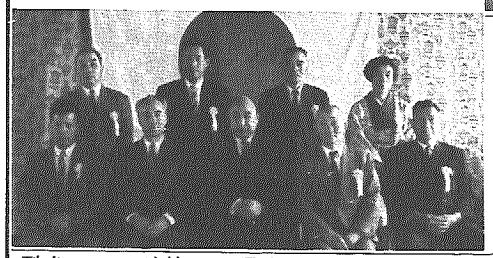
六月十日（土）
午前十時
忠魂前で執行


郵政大臣より叙勲の伝達受ける梶原さん

郷土発展に尽した方々 本間平治郎さんら表彰す

五月三日自治功労者を表彰毎年定期的に村の条例に基づいて実施される。村内の自治功労者と公益のために特別お尽しいただいた方々の表彰式が、去る五月三日役場で行なわれました。今回の被表彰者は次の通りであります。（敬称略）

本間平治郎
堀託員18年勤続
阿部佐之吉
堀託員11年勤続
遠藤貞次郎
徳行者十万円寄贈
横山平吉
徳行者二十万円寄贈
岩室農業協同組合
徳行者十万円寄贈
鈴木みん
徳行者十五万円寄贈
高柳甚治郎
徳行者十五万円寄贈
千野盛治
徳行者十万円寄贈
井上重雄
徳行者十万円寄贈
阿部作市
徳行者十万円寄贈



村税完納強調週間

⚡納税のコツは滞納せず「コツコツ」と納める⚡

5月1日発行の前号で、村税の完納めざして、納税者のみなさん（特に滞納者）の、ご理解とご協力をお願いしたところでありますが、5月31の出納閉鎖期現在、なお若干の滞納額が翌年度へ繰越されてしまいました。

滞納者へは、個人宛に、その滞納額を通知し、6月5日までに完納されるよう厳重に催告したところであります。

この度、村・県協力して6月12日～6月18日を、村税完納強調週間と定めてあくまで完納を目標に、努力していただくことにしました。

すでに差押え済みの物件引上げ、新たな差押えが行なわれ、それでも完納がなされない場合には、公売に付されるなどの、滞納処分が執行されることになりましょう。

事情あって滞納ある方は至急納税の手配をされると共に、納税一〇〇%の明るい村づくりに、全納税義務者が、一層のご理解とご協力を下さるようお願いいたします。

6月の納税は住民税と保険税の第一期

6月、住民税（村民税県民税）と保険税の第1期の納期です。

昨年の春、村税の各税目別納期一覧表を各戸に配布しましたが、本年度は納期の変更がありませんので、各税目の第1期に、併せて通知する「納税額通知書」によって、各月の納税計画をお立てになり、それぞれ納期限内に、完納していただくようお願いします。

前納報償金

納税通知書に記載された各納期の税額のうち、まだ到来していない納期分の税金を併せて前納されますと1ヵ月につき、税額の1%に相当する「前納報償金」が交付されます。

前納報償金は、条例の規定によって、固定資産税と住民税について交付されることになっています。

保険税については、医療費を、関係者が相互に負担する建前で、特別会計になっておりますので、前納報償金の制度は適用されません。

実質的に、税額が軽減される「前納報償金の制度を活用されるよう、おすすめします。

岩室地区敬老会 二十五日岩小で

岩室地区敬老会も回をかさねて第十七回となりました。ことしは六月二十五日（日）岩室小学校に於て午前十一時より挙行するはこびとなり二八五名の方々を御招待申上げる準備にかかっております。

例年のことでありますが挙行現在で満七十才の方々を御招待申上げることで、脱ろうのないように近く区長さんの手をわずらわして調査することになっております。

アトラクションとして新潟より演芸団を依頼して、ゆっくりと楽しんでいただく計画になっておりますのでおそろいで元気のお顔を見せて下さるよう心からおまちしております。